

電気通信大学 平成21年度シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー		
英文授業科目名	Computer Literacy		
開講年度	2009年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法	講義	単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-		
開講学科・専攻	情報工学科		
担当教官名	大山 恵弘、尾内 理紀夫		
居室	西9-515(大山)、西9-737(尾内)		

公開E-Mail	授業関連Webページ
大山 : oyama@cs.uec.ac.jp , 尾内 : onai@cs.uec.ac.jp	http://ol-www.cs.uec.ac.jp/~oyama/literacy2009/

【主題および達成目標】
<p>筆記の代わりにワープロ、電話の代わりに電子メールなど、いまやコンピュータは日常生活の文具として位置づけられている。情報工学科の課程では、その扱いがより専門化されることになる。このことを踏まえて、コンピュータを正しく、効率よく活用するために必要な基礎知識を学習し、演習を通じてより確実なものとする。また、簡単なプログラムの作成例を通して、コンピュータの働きの基礎概念とソフトウェア作成の基礎概念を理解する。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
必要に応じて指定する。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【授業内容とその進め方】

工学基礎演習第一と併せて授業を進める。コンピュータリテラシーの時間に講義される内容を、工学基礎演習第一の時間に演習する。

前半を計算機入門、後半をプログラミング入門とする。

計算機入門では、オペレーティングシステム、Web、エディタ、電子メール、シェル、ファイルシステム、プロセス、ネットワーク、ウィンドウシステム、文書作成システム等の基礎的事項について学習、課題演習を行いレポートを提出する形で進行する。

プログラミング入門は、プログラムの形、コンパイルと実行、判断と繰り返しの効用等について簡単な例題を示し、知識習得を確実にするための演習を行なう。オペレーティングシステムとしてUNIXを使い、プログラミング言語にはC言語を用いる。

【授業時間外の学習（予習・復習等）】

授業で出された課題を授業時間外に各自で解くことが求められる。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：出席回数と、提出されたレポートの内容により評価する。

(b) 評価基準：

計算機入門に関しては、オペレーティングシステム、Web、エディタ、電子メール、シェル、ファイルシステム、プロセス、ネットワーク、ウィンドウシステム、文書作成システムの基礎的事項について理解しており、これらに関するコンピュータの基本操作ができること。

プログラミング入門に関しては、プログラムの形、コンパイルと実行、判断と繰り返しの効用について理解しており、例題に対して適切なCプログラミングができること。

【オフィスアワー：授業相談】

特に設けない。質問や相談には適宜応じる。ただし、電子メールなどで事前に日時を決めること。

【学生へのメッセージ】

コンピュータを使う最初の科目である。ここで良い癖をつけるようにしよう。

欠席しないこと、コンピュータを使うことを億劫がらないこと、演習課題はすべて実行すること。

電気通信大学 平成21年度シラバス

【その他】
なし